

# 博学連携と利用促進のために

－大阪歴史博物館利用校のアンケート調査から－

宮前 一郎

## 1. はじめに

大阪歴史博物館は、古代から近現代までの大阪を体験することのできる歴史系総合博物館である。当博物館の優れた遺跡・文化財・資料を学習で生かすことは、子どもたちの歴史・文化に対する興味・関心を高め、将来に必要な歴史理解の力を育むことにつながる。現行の学習指導要領でも博物館等施設の活用を図るとしており、学びの場としての大阪歴史博物館の重要性はますます大きくなっている。しかし、当博物館を利用した学校数は、平成22年度を基にすると、23年度は-1.5%、24年度は-7.3%と減少している。この背景には学習指導要領の改訂で学習内容が増えたことによって、校外学習などの行事を精選して授業時間の確保に努めなければいけない学校現場の事情もあるだろう。

そこで、博学連携と利用促進に資するために、小学校の博物館利用の実態やニーズなどを把握しておく必要があると考えアンケート調査を行った。調査項目については、「小学校の博物館利用」、「博物館利用と年間指導計画」、「博物館利用における小学校での指導」、「展示内容と学芸員の講話やホームページの閲覧について」の4項目に焦点をあてて作成した。また、アンケートの最後に「学校と博物館・美術館との連携に取り組んでいます。今後、取り組みを深めていくために、ご意見やご感想をお聞かせください。」の欄を設けた。

調査にあたっては、当博物館を校外学習で訪れた小学校の先生にアンケート用紙を提示して調査の協力を依頼した。そして後日、調査校に電話を掛け質問項目に従って先生から聞き取り調査を行った。

## 2. 調査の概要

1) 調査方法・・・電話調査法

2) 調査期間・・・平成25年10月～平成26年2月

(平成25年10月から調査を開始して、50校が終了するまでの期間)

3) 調査対象・・・大阪歴史博物館を利用した小学校の先生50名(各校1名)

4) 本調査に関して回答した学校の所在地と学年別の表

所在地	大阪市内	大阪府下	他府県	学 年	6年	5年	4年	3年	5,6年合同
学校数	33	13	4	学校数	40	8	0	1	1

## 3. アンケートの結果について(カッコ内数字は校数)

### 1) 小学校の博物館利用

当博物館を利用した小学校のようすを「所要時間・滞在時間・他の見学場所」で調べた。

問1：学校から博物館までの所要時間

時間(人数)	～30分(19)	～60分(28)	～90分(2)	～120分(1)
--------	----------	----------	---------	----------

問2：館内の滞在時間

～1時間(9)	～1時間半(26)	～2時間(11)	2時間以上(4)
---------	-----------	----------	----------

問3：当博物館以外の見学場所

当博物館だけ(3)	大阪城公園(1)	天守閣(6)	ピース大阪(25)
NHK(6)	読売TV(1)	難波宮跡(3)	その他(13)

◇「学校から当博物館までの所要時間」は50校中47校が60分以内と回答しており、交通便は1時間以内を目安として当博物館を利用している。次に、滞在時間の質問では、1時間半と回答した学校が26校で最も多かった。学年による滞在時間の特徴を見ると5年生は8校中5校が1時間以内で、6年生は40校中37校が1時間半以上であった。滞在時間の学年による差は、当博物館が6年生で学ぶ歴史系を中心とした展示内容のためだと考えられる。

当博物館以外の見学場所で、「ピース大阪」と回答した25校は、すべて大阪市の小学校6年生であった。大阪市の小学校では、当博物館とピース大阪が歴史学習のコースとしてセットで認知されていることが分かった。一方、「NHK」や「読売TV」と回答した7校はすべて5年生であった。小学校では、1日に2ヶ所の博物館等施設を回り、校外学習を効率よく実施していることが分かった。

## 2) 博物館利用と年間指導計画

現行の学習指導要領では、博物館や郷土資料館等の施設の活用をすすめている。そこで、小学校現場において教科の年間指導計画に博物館利用が位置づけられているかを調べた。

問4：時間の位置づけ

社会科(39)	総合的な学習の時間(17)	学校行事(2)	その他(1)
---------	---------------	---------	--------

問5：年間指導計画への位置づけの有無

はい(28)	いいえ(22)
--------	---------

◇当博物館への校外学習を社会科の学習に位置づけている学校が約8割にのぼった。問5では、学校の年間指導計画に位置づけていると回答した先生が半数を超えていたが、「いいえ」も22校に上った。このことは博物館等施設の利用を、教科の年間指導計画に位置づけて計画的に毎年実施している小学校が必ずしも大多数ではないことを示している。今後より一層の博物館利用が望まれる。

## 3) 博物館利用における小学校での指導

子どもたちが博物館を有意義に利用するために、見学当日はもちろん、見学前後の学校での指導について「事前指導・自作ワークシートの作成・事後指導、山根徳太郎の指導」4項目で聞き取りをした。

問6：事前指導の有無とその内容

はい(42)	いいえ(8)
--------	--------

問7：自作ワークシート等の作成

はい(32)	いいえ(18)
--------	---------

問8：事後指導の有無とその内容

はい(43)	いいえ(7)
--------	--------

問9：山根徳太郎についての指導

はい(3)	いいえ(46)
-------	---------

◇事前指導は見学マナーや集団行動など生活指導面を中心に多くの学校で行われていた。学習面での指導は、ほとんどの先生が授業中に既習の歴史学習を振り返り見学への意欲づけにしたと回答した。「難波宮について知る」「見学の発表会をする」「新聞を作る」など、子どもたちに具体的な課題を与えた先生は4名にすぎなかった。同時に事前指導のツールについての質問では、自作のワークシートや当博物館のパンフレット、インターネットなどであった。

次に、見学当日の指導で、自作のワークシートを作成しているかについて「はい」と32名が回答した。そこで、ワークシートの内容や形式を質問すると、気づいたことや感想などのメモをしおりの一部に記録するものがほとんどであった。しおりとは別にワークシートを作成している小学校は6校に止まった。博物館利用後のまとめの指導は、ほとんどの先生が社会科の授業の中で触れたと回答した。

「山根徳太郎」については、教科書に取上げられていないので指導していないと46名が回答した。また、初めて名前を知ったと回答した先生も多くいた。大阪の子どもたちが、郷土の偉大な先人の業績について学ぶことは大切なことであり、キャリア教育などの教材として取上げてよいのではないかと思った。「博物館利用における小学校での指導」の調査結果から、多くの学校で見学にあたっての意欲づけは行われていたが、見学の視点や具体的な課題は与えられていないことが分かった。さらにワークシートの作成が6校にすぎないことから、博物館利用の学習課題が学校で十分焦点化されていないことが分かった。その結果、博物館に来て本物に触れさせることだけが目的になってしまっており、指導者である先生自身が博物館を使いこなせていないことが課題として残った。

#### 4) 博物館の展示内容、学芸員の講話やホームページの閲覧について

展示内容についての感想を聞くとともに、学芸員の講話やホームページの閲覧について調べた。

問10-A：学校の指導で役立つ展示

- 難波宮の映像や模型、難波宮跡
- 江戸から大大阪までの展示
- 地下の遺構の見学
- 10階から見える難波宮の全景
- 大阪の文化が分かる
- 教科書に載っていた芝居小屋
- 10階から下がるにつれて分かる時代の移り変わり など

問10-B：先生から見て子どもに評判のよかった展示など

- なにわ考古学研究所 (23)
- すごろくや両替のハンズオン (13)
- スタンプラリー (6) など

問11：学芸員の講話を聞く機会があれば利用するか

はい(36)	いいえ(14)
--------	---------

問12：ホームページの閲覧

はい(33)

いいえ(17)

◇指導に役立つ展示の質問では先生方から様々な回答が見られた。子どもに評判良かった展示は体験を伴うものに集中していた。学芸員の講話については、機会があれば次年度の計画に取入れたいという積極的な回答もあり、多くの先生が強い関心を示していた。「いいえ」の中にも滞在時間が限られているので講話を聴くことができず残念だという声が複数あった。事前のホームページの閲覧が意外に少ないことが分かった。閲覧理由は「事前指導のため」「交通アクセスを調べるため」「館内マップでトイレやエレベーターの位置を確認するため」であった。

問10-Aの指導に役立つ展示についての質問で、先生方からの回答が様々であったことから推測すると、博物館学習のねらいが定まっていないことの表れかと思われた。

#### 5) 自由意見欄の主な意見や感想

アンケート最後の自由に意見や感想を聞き取る欄では、博物館への要望などが寄せられた。

- ・子どもにとっては体験できるものが少なく解説文も漢字が多いため少し難しい。
- ・見るだけでは理解が難しいので、ボランティアに見どころなどの解説をして欲しい。
- ・展示されていたものをインターネットに載せていただけたら学習に活用したい。
- ・小学校では難波宮を取り扱わず、江戸時代もさらりと学ぶので展示品の活用の仕方が分からない。

#### 4. おわりに

当博物館を利用した小学校のようすを知り、先生方の要望を聞くなかで博学連携を進める手立てや利用促進のヒントを得ることができればと考えて調査を行った。学校では子どもたちが博物館で実物に触れる体験を通して、豊かな学びを経験させたいとしている。この学習の成否は、先生が博物館の展示内容を理解してワークシートを作成するなど、学習の焦点化を図ることにある。この取組が学校と博物館の連携に向けての大きな第一歩となる。すなわち、博学連携の鍵は先生の使命感にある。

一方、博物館として教育普及の観点から、「なにわ歴史塾」に学校相談コーナーや資料貸出コーナーを併設したり、もう少し多くの展示に小学生でも理解できる絵や説明文を付けたりすることも必要かと思われる。さらに、入館時に見学ポイントの説明や雨天時に安心して食事ができる場所の紹介があれば、利便性の向上からも利用促進につながることだろう。以上、調査を終えた感想である。

最後に、今回の調査に快く承諾していただいた皆様に心より厚くお礼申しあげます。

(公益財団法人 大阪市博物館協会 事業企画課)

《資料》 大阪歴史博物館利用後の電話アンケート

月 日 ( ) 天気 ( )

小学校	年生	児童数	お名前
-----	----	-----	-----

1. 学校から当博物館までのおよその所要時間は、  
① ~30分 ② ~60分 ③ ~90分 ④ ~120分
2. 館内の滞在時間は、  
① ~1時間 ② ~1時間半 ③ ~2時間 ④ 2時間以上
3. 本日、他の施設の見学をしますか。  
① しない ② 大阪城公園 ③ 天守閣 ④ ピース大阪 ⑤ NHK大阪  
⑥ 読売TV ⑦ 難波宮跡 ⑧ その他( )
4. 校外学習の時間の位置づけは、  
① 社会科 ② 総合 ③ 学校行事 ④ その他
5. 博物館利用を年間指導計画に位置づけていますか。  
①  はい ② いいえ
6. 事前学習を行いましたか。  
① はい( ) ② いいえ
7. 学校で自作のワークシートなどを作成しましたか。  
① はい( ) ② いいえ
8. 事後学習を行いましたか。  
①  はい( ) ② いいえ
9. 難波宮を発掘した山根徳太郎について、子どもたちに何か指導をされましたか。  
① はい( ) ② いいえ
10. 学校の指導で役立つと思われた展示や、子どもたちに評判良かった展示は何でしょうか。  
( )
11. 博物館で学芸員による講話など話を聞く機会があれば利用しますか。  
① はい( ) ② いいえ( )
12. 事前に当博物館のホームページをご覧になりましたか。  
①  はい( ) ② いいえ

※ 大阪市博物館協会では、学校と博物館・美術館との連携に取り組んでいます。今後、取り組みを深めていくために、ご意見やご感想をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。 【公益財団法人 大阪市博物館協会】

